

令和元年度研究成果に関する外部有識者意見聴取の結果について

令和2年(2020年)3月31日
山口県農林総合技術センター

1 目的

研究成果の公表にあたり、現場での活用可能性、新規性、フォローアップや確認試験の必要性について外部有識者から幅広い視点や専門的な観点から意見を聴き、意見を踏まえた対応方向等今後の研究開発に活かす。

2 対象課題

令和元年度にセンター内部の完了評価を受けた単県研究課題

3 外部有識者の選定

1課題4名の外部有識者を次の①～④の区分から1名ずつ選定し、別添の調査票により令和2年2月から3月にかけて意見を聴取した。

①学 識 経 験 者：国立大学法人 山口大学

②他 の 研 究 機 関：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター

③農 業 関 係 団 体：全国農業協同組合連合会中四国営農資材事業所、(公社)山口県畜産振興協会

④消 費 者 団 体：山口県地域消費者団体連絡協議会

4 結果

No.	課題名	総合評価※2	評価内訳※1 (人)		
			A	B	C
R01-01	冬春トマトの少量培地耕による高糖度安定生産技術の確立	十分な成果が得られた	2	2	0
R01-02	簡易低コスト型栽培システムでの‘かおり野’の高品質・多収生産による高収益体系の確立	十分な成果が得られた	2	2	0
R01-03	コムギ黄斑病の発生生態の解明および防除法の確立	十分な成果が得られた	3	1	0
R01-04	飼料自給率向上のための国産飼料等の黒毛和種肥育牛への給与技術に関する研究	十分な成果が得られた	2	2	0
R01-05	山口型放牧とイネWCSを活用した経営安定化技術	十分な成果が得られた	3	1	0

※1 評価基準

A：山口県の生産・流通・加工等の生産現場で活用可能性が高い。

B：生産現場での確認等の普及支援を行うことにより現場で活用が可能。

C：追試や確認試験が不可欠・現場で活用可能性が低い。

※2 総合評価

Aが過半数の場合：十分な成果が得られた。

AとBを合計が過半数：一定の成果が得られた。

上記以外：成果が得られなかった。

※3 その他寄せられた主な意見等は別紙参照

5 その他

当センターホームページを通じて令和2年2月14日から令和2年3月6日までの間、一般県民から対象課題に関する意見募集を実施し、寄せられた意見は0件であった。

(別添)

令和元年度研究成果に関する外部有識者への意見聴取 質問・意見等記入票

記入日：令和2年 月 日

所 属： _____

氏 名： _____

課題番号	
課題名	

1 以下の質問事項についてあてはまる評価の□にチェックを入れてください。

評 価 内 容	評 価		
	A	B	C
	可能性 は高い	普及支援 により活 用が可能	可能性 は低い
この研究成果は実用技術としての活用可能性は高いと思いますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

評価基準

A：山口県の生産・流通・加工等の生産現場で活用可能性が高い。

B：生産現場での確認等の普及支援を行うことにより現場で活用が可能

C：追試や確認試験が不可欠、現場で活用可能性が低い。

2 その他、この課題に対して御意見があれば記載してください。

--